



# 弘大農学部同窓会会報

## 第6号

昭和60年11月15日 発行  
発行 弘前大学農学部同窓会  
TEL. 0172-36-2111  
振替 盛岡 4-564番  
印刷 (株) 笹 軽印刷

## 弘前大学農学部創設30周年記念事業を終えて

去る7月6日、弘前大学農学部創設30周年記念式典が厳粛のうちに挙行され、又引続き会場を移しての祝賀パーティーも華やかで、盛会裡に無事終了したことを御報告すると共に、記念事業に賛同され参画、実行された関係各位に対し深く感謝の意を表するものであります。

本事業は御承知の通り戦後の混乱がようやくおさまり、復興に向けて槌音高く響きかけた昭和26年4月発足した弘前大学文学部農学科のあと、昭和30年7月に弘前大学農学部として創立をみて以来30周年の佳き日を記念して実行されたものであります。

農学部教授会、同窓会役員会への了承から始まり、議を経て記念事業実行委員会では協議が幾度となく重ねられ、又、事業費確保には時節柄特に苦労が多かったこと等々、今となればあれもこれも想い出となってしまいました。

幸にも前農学部長佐々木信介教授が率先され、情熱をもって意欲的に取組まれたことや、学部側の担当責任にあたられた各先生方が綿密に計画を樹立され、それを実行に移されたこと、記念彫塑(望蒼天)制作にあたって教育学部岡田敬司助教授の絶大なる御協力のほか、「30年のあゆみ」をまとめられた編集子の先生の御苦勞等枚挙に暇がない程の御盡力には頭の下がる思いがいたします。

同窓会側としても事業の実施に漕ぎつけるまで、事務局の豊川好司助教授ほかスタッフの面々日夜のご努力で、本来の研究に多大の影響があったのではないかと心配される程頑張っていたいただき感謝の言葉もありません。

本事業に特に御理解を示し、御賛同願った

同窓会長 横山 宏

同窓生には事業を直接御覧ったり、又、同窓会役員や学部の教職員も御多用中色々準備、進行に御援助を賜わり、立派な運営で当初の目的を十分果すことが出来ました。

御来賓の大学関係者は勿論のこと、青森県知事をはじめ県内外関係者が多数祝賀行事に御参加下さいました。誠に有難うございました。特に国会から国務大臣科学技術庁長官竹内黎一氏、並びに松尾官平参議院議員が御出席のうえ激励され、県知事共々盛り上がり花を添えて下さいましたことは無上の光栄と存じております。

教職員OBの方々も久方振りの顔合わせで、感激であったろうと推察申し上げますが、混雑にまぎれて十分な御挨拶も御世話も叶いませんので申し訳なく存じております。

遠路御越しを願ひながら非礼のことにつきましては慶事に免じて御許し下さるよう御願ひする次第であります。

弘前大学農学部創設30周年記念事業は関係者の御努力で成功裡に終了いたしました。

一つの節目が過ぎて新たな出発を覚えます。農学部の新たな充実発展が約束されたような錯覚にとらわれ勝ちですが、自重のうえ農学部及び同窓生諸兄と連絡をとりながら、将来に向けて精進したいと考えております。

さいごに、重ねて農学部30周年記念事業に理解を示され、積極的に参加され協力御援助を賜った同窓生及び農学部、並びに関係各位に深甚なる謝意を表すると共に、今後共御指導、御鞭達の程を御願ひいたしまして御挨拶といたします。ありがとうございました。

## 記念行事を卒えるに当って

農学部長 坪 松 戒 三

2年余に亘り佐々木前農学部長、横山同窓会長、同窓会員各位の度重なる協議により創設30周年記念事業を開催する運びとなり、その構想が披露された。実のところこんな壮大な計画が実現できるのだろうかと危ぶんだものである。というのは、予算面で臨調のあおりをくって校費は殆んど伸びず、実質的には年々低下傾向にあったからである。

そこで、校費支出をできるだけ圧縮して、記念図書購入、植樹庭園整備、この10年間の研究業績目録を弘大農学術報告に掲載する程度にとどめ、別に、特定研究経費の獲得、県よりの研究費補助を導入する記念研究出版の道を模索した。その他の事業は、同窓会の積極的な申し出により、その好意に甘んずることとした。即ち彫塑の校地内建設、記念誌農学部30年の歩み、記念絵はがき等の発行、記念講演会、記念式典、祝賀会、その他準備会等の開催である。これら事業の遂行は、同窓会員、学部教職員などの日夜に亘る献身的な努力によるものであって、本年度に入って束の間、関与した私にとって頭の下る思いであった。詳しい行事の報告が必要かもしれませんが、他に譲り、私は総体的な経過のあらましと御礼を述べさせて戴くことだけにしたいと存じます。

行事のなかでのメインイベントは、何といっても7月5日除幕式が行われた本学教育学部岡田敬司先生制作の「望塑天」でありましょう。農学部にふさわしく、大地から萌えいずる生命体をあらわし、末永永却に続く動体、すなわち学生の希望と飛躍、進歩と発展を希求した考える像として、農学部関係者がこの庭に佇むとき、しばし瞑想の世界に没入してほしいとの意向と思われます。

7月6日の記念講演会は、佐々木先生の創設期の実情と努力の成果を、同窓松本先生の科学者としての心構えについて行われ、共に

感銘深い内容で参会者の感動をよび、明日へのあくなき追求の決意を促した名講演であった。同日の式典・祝賀会には、竹内科学技術庁長官、松尾国会議員はじめ、県知事、弘前市長など各界の名士の御臨席と御祝辞を戴き、東北大農学部長からはうらやましい限りだとの祝辞を頂戴した。学長はじめ学内部局長、教職員の大先輩、同窓会各位など遠隔地から多数の御出席をえて盛大に長時間行われ、先輩各位、地域関係者の努力の足跡をふりかえると共に、将来への奮励努力を誓わざるをえないような感激の雰囲気の中に終了した。記念品としての記念誌、望塑天の文鎮、記念絵はがきの贈呈も一層意義深いものにしたと思っている。

記念図書購入や研究業績目録登載も終り、学生教育にその実をあげるものと期待され、庭園整備、植樹も終えようとしている。しかしまだわれわれには、農学部30周年記念研究「農学研究からみた青森県農業、その問題点と展望」の執筆が残っている。これが終わってはじめて30周年記念事業が完了することになる。ともあれ関係各位の総力によってこの事業が終りに近づいていることに感謝しなければならぬ。

それにしても今回の大記念事業は、同窓生諸君の絶大な御援助、御協力によってはじめてできたことであり、あらためて2,400名にんなんとする同窓生一同に心から謝意を表したいと存じます。併せて今後の同窓会の発展を祈念し、将来に亘る学部への御協力をお願いしてひとまず御挨拶と致します。



## 三十周年記念事業を終えて

実行委員長 森 敏 夫

農学部創設三十周年を記念する事業も、同窓会々員の皆様の絶大なるお力添えと御参加のもとに、一部を残して主行事を滞りなく終了しました。心から感謝申し上げる次第です。

人生においても満三十才と言えば大きな節目であり、いよいよ自分の顔を引っ下げて己れの人生を築いていく時に当ります。わが弘前大学農学部もこの三十年の歴史の中で、基礎的な体制をほぼ整え、二千有余の人材を輩出し、今や本州北端に所在するユニークな農学部としての地歩を固めたと言えましょう。

さて、二年前に発足した記念事業委員会は、学部教職員と同窓会の代表を以て構成し、十の事業を企画し、度重なる会合を持ちながら準備を進めて参りました。必要財源の殆どを同窓会に依存せざるを得ず、最も心痛するところでありました。しかし、無理なお願いに拘らず、会員各位からは多大の御寄附が寄せられ、事業遂行のめども立ち、委員一同感激するとともに、何としても歴史にとどめる意義あるものにしようと思ひかけた次第です。

時至って、主行事である彫塑除幕式(7月5日)、記念講演会、式典、祝賀会(7月6日)の両日は、朝から初夏の陽もまばゆい好天に恵まれました。岡田敬司氏制作に成る大作“望蒼天”の幕が引かれ、いのちを凝縮した単純な造型が、陽光に映えて真白な全容を現わした瞬間は忘れがたいものがありました。これが常に農学部のわきに立ち、これから先もここに集う若き学徒たち一人一人を、思索の淵に誘ってくれることを念じました。

翌日の講演会(市文化センター)における同窓生松本勤氏の研究者・教育者としての赤裸々な苦悩と信念の吐露、前農学部長佐々木信介教授の写真をまじえた草創期における先人の苦斗の物語り、何れも聴く人に深い感銘を興え、特に在学生に多大の感動と激励を与えるに十分でありました。

続いて式典に移り、物故者追悼ののち、坪

松新学部長の力強い決意の表明、横山同窓会長の挨拶、牧野学長、北村県知事、福士市長らの来賓祝辞、学生代表高橋和弘君のよろこびの言葉が続きました。この厳粛な式典を通して、参列者一同あらためて三十年の重みを胸にし、次の飛躍への覚悟を固めたのでした。

会場を移しての午後からの祝賀会は、来賓を始め、新旧教職員、学生、そして地元はもとより遠くから馳せ参じた多数の同窓生の顔が揃うなか、中尾良仁氏の司会で始められました。坪松農学部長、横山同窓会長の挨拶のあと、来賓を代表して川崎東北大農学部長、照井名誉教授の祝辞が続き、北村県知事の発声で乾杯の盃がくみかわされました。杯を重ねるにしたがい、旧交をあたため合う声は次第に高まり、よろこびの熱気は会場に満ちあふれました。宴も最高潮に達するころ、篠辺三郎教授の解説による貴重なスライドの上映があり、古い同窓生からは往時を偲んでの歓声が上りました。名残りも盡きぬなか、小原信実先輩のユーモア溢れる音頭取りで三々七柏子の拍手が満場に響きわたって終宴となりました。よろこびの参会者を送り出したあと、世話役一同無事大任を終えた満足感で一杯でした。

私は非力にかかわらず、実行委員長の重職を冠せられ、終始不安のうちに相つとめました。幸いに有能な委員の皆さんが献身的に活躍されたことと、講演して下さった松本氏始め同窓の方々の物心両面にわたる御協力があつたればこそ成功裡に終えることができました。ほんとうに有難うございました。

行事は終わりましたが、ここをステップとして次の歴史が始まります。農学の再編が問われている時、われわれの前途をしっかりと見据えて、ゆるぎない第一声を踏み出さねばなりません。会員の皆様は、蒼天を望んで伸びる芽生えの如く、たくましく自己を生きるとともに、母校への変らぬ御支援と御鞭達を寄せられるよう願いたします。

## 農学部創設30周年記念行事(7月5日~6日)とどころりなく終る

直接参加されなかった皆様へ、簡単に行事内容を御報告致します。

## 7月5日

## ○記念彫刻「望蒼天」除幕式

午後3時~4時 農学部同彫刻前 約130名出席

- ・開式の言葉(司会 豊川好司幹事)
- ・経過報告(佐々木信介先生)
- ・除幕(岡田敬司制作者, 農学部長, 同窓会長, 学生代表)
- ・挨拶(同窓会長 横山宏)
- ・祝辞(農学部長 坪松戒三)
- ・感謝状贈呈(農学部長, 同窓会長)

制作者 岡田敬司氏

工事関係者

中野組石材工業株式会社(茨城県)  
富士土木石材工務店(弘前市)

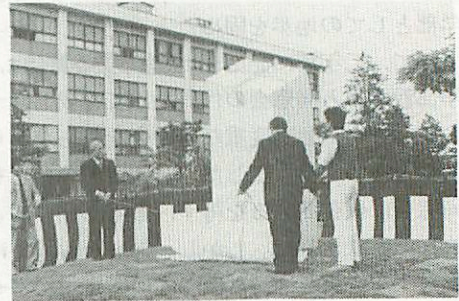
- ・制作者の言葉(岡田敬司先生)
- ・閉式の言葉(豊川)

## ○望蒼天除幕祝賀会

午後4時~6時 大会館3階 約130名出席

- ・閉会の言葉(司会 中村良三評議員)

- ・同窓会長挨拶
- ・農学部長祝辞
- ・森田昇名誉教授乾杯
- ・テーブルスピーチ(祝辞)  
高安一郎先生  
香川 寛先生  
千葉京子女史(33卒)
- ・閉会の乾杯(土岐政雄同窓会副会長)
- ・閉会の言葉(中村)



除幕式風景

## 7月6日

## 記念講演

時間 午前9時30分~11時20分

場所 弘前市文化会館ホール

演題 ①研究者・教育者として考えること  
(松本 勤氏)

②農学部創設のころ(佐々木信介氏)

## &lt;講演者紹介&gt;

## 1. 松本 勤氏

現在, 秋田県立農業短期大学農学科植物病理学教室教授。北海道出身, 46才。昭和39年/弘前大学農学部農学科植物病理学卒業。昭和45年/北海道大学農学部農学研究科博士課程修了。アルファルファモザイクウイルスの研究により農学博士。秋田大学医学部生化学講座助手を経て現職に至る。この間, カナダ・アルバータ大学留学, 同大学客員研究員として招へいされる。現在の研究は植物ウイルス核酸の免疫化学的研

究, 特に現在, 細胞融合によるモノクローン抗体を研究している。

## 2. 佐々木 信介氏

現在, 弘前大学農学部農学科作物学教室教授。北海道出身, 63才, 農学博士。昭和21年/北海道帝国大学農学部農学科食用作物学卒業。北海道教育委員会, 農業物理研究所ならびに道庁奉職後, 昭和26年, 弘前大学文理学部講師着任。同農学部助教授を経て現在に至る。この間, 附属農場長, 評議員, 学生部長, 農学部長を歴任。昭和59年/産業教育100年記念教育功績者表彰。専門は作物の生理生態, 気象災害などである。



松本 勤氏

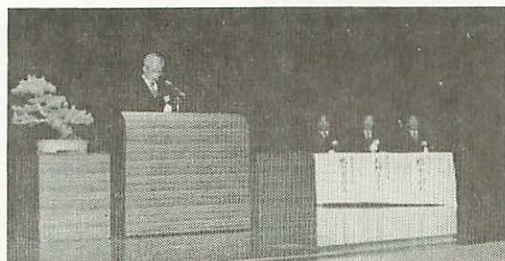
佐々木信介教授

## 記念式典

時間 午前11時30分～12時30分  
場所 弘前市文化会館ホール

## 式次第

開式のことば  
物故者への黙禱  
農学部長式辞  
同窓会長挨拶  
来賓祝辞  
弘前大学学長  
青森県知事  
弘前市長  
学生代表よろこびの言葉  
祝電披露  
閉式のことば



学部長挨拶

## 記念祝賀会

時間 13時～16時  
場所 法華クラブ

## 式次第

開会のことば  
農学部長挨拶  
同窓会長挨拶  
来賓祝辞  
来賓学部長代表(川崎健東北大学農学部長)  
元教職員代表(照井陸奥生名誉教授)  
乾杯  
(北村正武青森県知事)  
祝宴  
テーブルスピーチ  
竹内黎一科学技術庁長官  
竹浪春夫青森県町村会会長(板柳町長)  
島捨夫氏(32卒)  
スライド上映(解説 篠辺三郎教授)  
“農学部の創設から現在まで”  
閉会のことば



北村知事による万歳三唱

## 参加者名簿

来賓(学外) 30名

阿部 幸吉 山形大学農学部長  
川崎 健 東北大学農学部長  
寺島 福秋 北里大学獣医畜産学部長代理  
臼淵 勇 弘前大学元学長  
大池弥三郎 " 前学長  
竹内 黎一 科学技術庁長官  
松尾 官平 参議院議員  
北村 正武 青森県知事

中村 光弘 青森県農林部長  
工藤 俊雄 " 農林部理事  
鳴海 怜次 " 農業経営研究所長  
原子 重男 " 農政課長  
千葉 末作 " 農業試験場長  
工藤 祐基 " りんご試験場長  
泉山 成二 " 畜産試験場長  
三上 敏弘 " 畑作園芸試験場長  
北嶋 祐二 " 林業試験場長  
中村 正行 " 農業大学校長

小山 錦也 青森県養鶏指導所長  
 成田 重彦 " 高等学校長協会農業部会長  
 福土 文知 弘前市長  
 藤本 定男 弘前市農林部長  
 竹浪 春夫 青森県町村長会会長  
 小笠原 盛 藤崎町町長  
 古川 竹夫 金木町町長  
 太田 将一 青森県農業会議会長代理事務局長  
 成田 長徳 県農業協同組合中央会会長代理参事  
 中谷藤太郎 県経済農業協同組合連合会会長  
 藤田 孝 青森県りんご協会会長

## 来賓(学内) 21名

牧野吉五郎 弘前大学学長  
 秋月 観咲 " 人文学部長  
 手代木 涉 " 理学部長  
 東野 修治 " 医学部長  
 明石 誠 " 教養部長  
 品川 信良 " 附属病院長  
 正木 進三 " 附属図書館長  
 大内 五介 " 学生部長  
 松井 哲郎 " 保健管理センター所長  
 岡田 敬司 " 教育学部助教授  
 肥田野 豊 " " "  
 邊見 儀平 " 事務局長  
 室井 誠 " 庶務部長  
 高梨 正昭 " 経理部長  
 小出 稔 " 施設部長  
 佐藤 巖 " 学生部次長  
 葛西 良男 " 附属病院管理課長

山内 盛行 " 人文学部事務長  
 小野 長一 " 理学部事務長  
 笹森 昭隆 " 医療技術短期大学部事務長  
 田名部貞宣 " 元事務局長

## 元教官 14名

照井陸奥生 弘前大学名誉教授  
 森田 昇 " "  
 望月 武雄 " "  
 青木 二郎 " "  
 中山林三郎 " "  
 高橋 俊行 前北里大学教授  
 大塚嘉一郎 現岩手大学教授  
 高安 一郎 現芦屋大学教授  
 福島 正三 前岐阜大学教授  
 吉良 八郎 現東京農大教授  
 香川 寛 前青森県農業試験場長  
 斎藤 善一 現北海道大学教授  
 武田 和義 現岡山大学生物研究所助教授  
 伊藤奎太郎 現渡辺採種場

## 元事務職員 10名

石 戸 貞五郎	山 口 健 三
山 田 銀次郎	土 岐 勇太郎
前 田 文 衛	玉 田 平 三
黒 滝 澄 夫	熊 谷 大 助
上 原 小三郎	対 馬 定 男

現教官・事務職員 約80名  
 同窓生 約220名

## 醸金(振込額)結果

学 科	農 学 科	園芸化学科	農業工学科	園芸学科	合 計
醸 金 額 (円)	6,423,391	2,040,000	1,736,000	910,000	11,109,391
醸 金 者 (人)	453	245	207	126	1,031
会 員 数 (人)	719	636	537	337	2,229
醸金者割合(%)	63	38	39	37	46

なお、住所不明者162名を除くと、醸金者割合は丁度50%になります。また、醸金者1人  
 当たり金額は1万円をこえました。皆さんの強力な協力体制がうかがわれました。(振込手  
 数は農学科より差引いてあります。)

# 定 期 総 会 報 告

(60, 7, 21 於 青森市)

## 一 昭和58, 59年度 事業報告ならびに会計報告 一

### 1. 事業報告

- (1) 会員名簿59年版作成, 59年11月20日発行  
 (2) 支部活動支援, 各支部会開催に際し母校教官参加の援助と, 支部創立可能県への働きかけ。  
 (3) 情報伝達, 会報は4回(2号~5号)を発行。

### 2. 昭和58, 59年度会計報告

#### 一般会計収支決算

収入総額	7,059,865
支出総額	5,437,400
収支差引残高	1,622,465

#### 収入の部

費 目	決 算 額	備 考
57年度繰越金	3,016,389	
一般会費	3,025,300	
入会金	905,150	
貯金利子	113,026	
計	7,059,865	

#### 支出の部

費 目	決 算 額	備 考
<b>事業費</b>		
会員名簿発行費	1,881,050	
会報発行費	1,070,920	4回発行 卒業パーティ 記念写真
新入正会員歓迎費	290,090	
支部協力金	780,960	
会議費	178,325	
<b>事務費</b>		
事務管理費	602,890	
事務用品費	7,375	
通信印刷費	600,150	
慶弔費	25,640	
計	5,437,400	

### 3. 規則改正

第5条3項, 副会長の項に2名以内を加筆する。  
 改正文「会員中より役員会で選考し, 総会で2名以内を推薦する」と改正されました。改正理由は役員の皆さんが社会的に重要な立場につき, 御多忙の身となってきたり, 同窓会の行事に対応できない場合も多くなってきたことにより, 副会長を増やすことで同窓会の円滑な運営を図ることとあります。62年度から増員の計画です。

### 4. 新年度役員の承認 (○印は新任)

次のように推薦され, 承認されました。(敬称略)

会 長 横山宏 (28卒, 営農大学校)  
 副会長 土岐政雄 (30卒, 青森市役所)  
 監 事 中尾良仁(32卒, 県庁), 岩井邦彦 (32卒, 弘前市役所), ○中村良三(33卒, 県庁)

#### 評議員 (20名)

原田順厚(31卒, 弘大農), 栗生和夫(32卒, 県畑園試), ○扇田実(33卒, 県庁), ○佐藤孝(34卒, 県庁), 久保惇(34卒, 八戸市役所), ○外崎勇七(34卒, 五所川原農林高校), 野村忠弘(35卒, 県畜試), 桜庭誠蔵(36卒, 弘前市役所), 佐々木秀博(38卒, 北海フォード), 長尾信義(38卒, 柏木農高), ○大場真紀(38卒, 芝管工), ○米谷誠治(39卒, 県庁), 山崎季好(39卒, 県農試), 鎌倉二郎(39卒, 県りんご試), ○今哲夫(42卒, 電技工業), 尾崎一美(44卒, 弘前市農協), 蒔苗龍一(45卒, 東北建設コンサルタント), ○丸島仁(46卒, 中央会), ○及川博(47卒, 農業会議), 木村郁夫(47卒, きむら種苗)

#### 交替評議員 (5名)

富士昭夫 (県庁), 柳川勝 (農業大学校), 成田清治 (経済連), 中村良三 (県庁), 小山内俊一 (農業)

## 幹事

豊川好司(総務名簿), ○藤田隆(会計),

工藤明(情報),

交替幹事 角野三好, 宮入一夫

## — 新年度(60~61)事業ならびに予算計画 —

## 1. 事業計画

平常年の内容に戻ります。

- (1)会員名簿61年版は61年11月発行。  
 (2)支部活動支援, ならびに支部結成援助。  
 (3)会報は年1回配布。  
 (4)学部主催卒業(新正会員歓迎)祝賀会予算援助。

## 2. 昭和60. 61年度予算計画

収入の部

費 目	決 算 額	備 考
58, 59年度繰越金	1, 622, 465	
一般会費	3, 000, 000	
入会金	1, 350, 000	
広告料	200, 000	
計	6, 172, 465	

支出の部

費 目	決 算 額	備 考
事業費		
会員名簿発行費	2, 000, 000	3回発行
会報発行費	800, 000	
新入正会員歓迎費	300, 000	
支部協力金	800, 000	
会議費	200, 000	
事務費		
事務管理費	400, 000	
通信印刷費	300, 000	
予備費	1, 372, 465	
計	6, 172, 465	

## 3. 30周年記念事業会計報告

特別会計収支決算

収入総額	14, 190, 100
支出総額	14, 182, 834
収支差引残高	7, 266

収入の部

費 目	決 算 額	備 考
醸金	11, 109, 391	
広告料	755, 000	
祝賀会々費	1, 457, 000	
祝賀会御祝儀	536, 782	
貯金利息	331, 927	
計	14, 190, 100	

支出の部

費 目	決 算 額	備 考
式典祝賀会関係経費	3, 454, 240	送料含む
記念誌発行経費	4, 352, 117	
彫塑関係経費	3, 327, 200	
記念彫塑文鎮	595, 800	
除幕式関係経費	378, 500	
記念絵葉書	278, 832	
会議費	245, 065	
支部協力金	59, 200	
印刷通信コピー	649, 690	
アルバイト謝金	549, 570	
事務用品費	25, 620	
慰労会経費	170, 000	
その他	97, 000	
計	14, 182, 834	

以上のことが承認されました。





## 教室だより

### ＜応用昆虫学講座＞

Sさんへ

前略。一週間の出張をおえて帰ってきたら、岩木山に白いものがつもっていました。Sさん、お元気ですか。僕はあいかわらず元気で毎日忙しい生活を楽しんでいます。正木先生は図書館長を兼任され、研究のペースもさげずに頑張っておられるため以前にも増してお忙しい毎日で、見ていると気の毒なくらいです。安藤先生も温度勾配が調節できる新しいインキュベーターや実験装置を駆使して、卵休眠の研究に一段と力を入れておられます。

僕の「目玉風線」は、いつのまにか日本の農村風景を変えるぐらい普及してしまいました。しかし商品として出まわっているほとんどのものが防鳥効果の疑わしいものばかりで、本当に困っています。悪しき商業主義は、あいかわらずこの国を覆っています。5年前から始めた「目玉カイコ」の選択実験の結果、とうとう目玉カイコから目玉カイコが100%得られるようになりました。この経過は海鳴社から今春出版した『仮面性の進化論—目玉模様に憑かれた人たち』に詳しく述べていますので、御一読ください。あとがきで謝意を

表明した卒業生の皆さん、あなたや多くの人々に感謝の気持ちでいっぱいです。僕はいつもあなたたちと共に育ってきました。今もそうです。今年、弘前大学農学部は30周年を迎えました。いつのまにか僕も、この農学部の1/3の歴史を共に歩んできたのです。大学の中はあまり急激に変わりません。もっと変わらないのは僕かもしれません。いいえ変えようとする努力を怠っているのではなく、やはり「大学」にこだわり続けているのです。バイクと交通規制ばかりが目立つようになった大学の中に、大学本来の姿を求め続けているのです。「自らの青春を賭して守ろうとした大学とは、いったい何であったのか」と。「真理探求の場」ということばが聞かれなくなって久しいこのごろですが、僕は今も元気です。世の中がとてもしやになったら、Sさんどうぞ大学に戻ってきませんか。僕たちは、いつも暖かくあなたを受け入れます。今でもコーヒータイムとティータイムは続いていて、心優しい仲間たちがあなたを歓迎してくれます。ではまた。お元気で。1985年、秋。

### ＜農地工学講座＞

本研究室は本年3月に15回目の卒業生を送り出しました。総計で122名になります。

研究室発足時のスタッフは、教授長谷部次郎、助教授矢橋辰吾、助手小出維夫の3先生でした。

長谷部先生は、畑地灌漑の研究が御専門で、一般農業土木学会畑地灌漑研究部会長をお務めになりました。この際、59年に青森市において研究集会を催しましたが、本学部同窓生を中心とする県土地改良課の方々に御尽力をいただき近來にない盛況な集会となりました。

矢橋先生は、泥炭土の物理性・工学性の研究を進められ、西津軽ホ場整備に関わる農地工学的諸問題の解決に貢献されました。57年

に千葉大学園芸学部へ転出されましたが、益々の御活躍であります。

小出先生は御自身の研究を進める傍らで、学生の良き相談相手として研究室運営に尽力されました。学生諸君に敬慕されるお人柄であったと伺っています。56年に不帰の人となりました。

現在のスタッフは、長谷部先生および助教授萩原守、事務官岩間由紀の3名です。萩原は火山灰土の土壌工学の研究をしています。岩間さんは2年前に任官され、研究室事務全般を執り行っています。

本年度の卒論専攻生は8名。畑地灌漑、汎用耕地、土の三軸圧縮試験の問題に取り組んで

います。また、専攻生専用4台のパソコンが用意されています。卒業するまでにはそれぞれにひとかどの域に達するようです。土の実験研究は地味なので最初のうちは乗り気がしないようですが、自分なりに問題点を把握すると驚く位に器用に解決することがあり

ます。本人自身が一週間前の状況とは全然違うと驚いているといった感じです。

最後になりましたが、同窓生の皆様の一層の御活躍をお祈りすると共に、後輩への御指導、御鞭達を宜しくお願い申し上げます。

(M・H記)

支部たより

関東支部同窓会(北冥会)



関東支部同窓会(北冥会)は、弘前より坪松学部長、角野先生、関東地区在住の森田先生、矢橋先生をお迎えして、6月1日、東京八重洲ルビーホールで開催されました。

学部長の御挨拶、角野先生の30周年記念事業についての報告の後、懇親会となりました。

関東支部会員は、農学関係に限らず、多種多様な分野で活躍されており、各自の専門分野での話題で大いに盛り上がった懇親会とな

りました。

ただ残念な事には、年々出席者数が減少し、本年は27名と第1回同窓会の1/2程度となっております。特に最近の卒業生や女性の出席者が少ない点が目立っております。

今後、支部の運営、総会のあり方等について広く会員の皆様の御意見をいただき、より一層の飛躍を目指したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。事務局 真岩記

「30年のあゆみ」の訂正について		
	誤	正
P44右下2	……だけで	……だけでは
P45左下15	実施視察	実地視察
同右下12	土間の	土間に
P278表中	伊藤豊治	伊東豊治
(4カ所)		
同(30年)	工藤昭次事務管	工藤昭次事務官
P331表中(38年)	副手1	助手1
同(39年)	同	同
P352右下8	69.9	699
※なお、お読みいただき、お気付きの点がございましたら事務局まで御一報ください。		

学内人事

中村信吾助教授 教授昇任(8月1日付)  
(農産物利用学講座)

慶事

豊田隆助教授 (農業経済学講座)  
昭和60年 日本農業経済学会賞受賞

弔事

高杉 孝 (32年園芸学卒)

